



北側外観

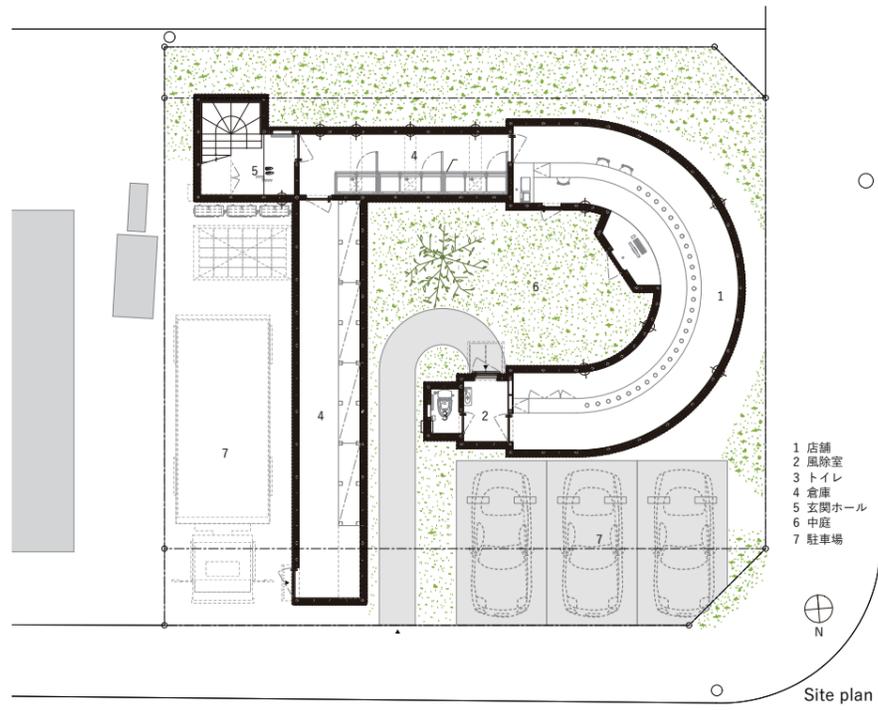


サイン

チャールズ・ムーアは「地図を見ると湾や港、島や群島、入江や河口など変化に富んだ海岸線は、陸がただ海にぶつかるシンプルな海岸線より面白い。」といい、「建築においても大きなホールや部屋などは広々とした海原の建築版」であるという。そして「海原に対して複雑な地形の様な場所がアルコール館などであり、人間の基本的な行為を可能にする。」といている。今回の建築は北海道の東の街、北見市に建つ店舗併用住宅である。要望の店舗用駐車場3台を最も敷地へスムーズにアクセス可能な北西に配置。搬入車両スペースを東側へ。店舗の来客アプローチからトラックやコンテナ置場などのバックヤードが見えないように建物ボリュームをせり出す。要望により店舗入口は見えない位置へ配置するため路地をつくり中庭を通る。周辺環境が海原であり建築が海に浮かぶ島であるとするならば海原と島が出会う海岸には波などのコンテクストの影響による地形が現れる。シンプルな海岸もあれば複雑な入江もできる。この建築の形も同様であると考え。お店のプログラムは厳選日本酒専門のセレクトショップであり、夫婦二人で暮らしながら運営する。内部はカーブした空間であり、見えない向こう側を想像しながら奥の空間へ進むことになる。カーブ空間は複雑な地形であり、アルコール館のようでもあり、建物全体においては海原であるという、二重の意味を持った空間である。夫婦二人でのシンプルな接客が条件となり、海原にシンプルな海岸線をつくるようにカウンターを設置しディスプレイされた日本酒と出会い、気に入ったお酒を奥の倉庫から来場者自ら取出し購入するプログラムをつくる。



俯瞰



- 1 店舗
- 2 風除室
- 3 トイレ
- 4 倉庫
- 5 玄関ホール
- 6 中庭
- 7 駐車場



Site plan



アプローチ



中庭



外壁ディテール



カウンターにディスプレイされた日本酒を見る



エントランスより店舗を見る



商品セレクト棚



商品セレクト冷蔵ショーケース